

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年10月22日（金）10時00分～11時15分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、高松専門職、高木係長、横山係長、久川係員、高木技術参与
澁谷企画調査官、知見主任安全審査官（テレビ会議システムによる参加）

福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当9名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 1号機原子炉格納容器（PCV）ガス管理設備スイッチBOX交換作業について
 - ✓ 令和2年11月に1号機PCVガス管理設備において、緊急停止プッシュボタン（PB）の誤操作に伴う系統全停による運転上の制限からの逸脱事象が発生したことから、誤操作防止の対策として、スイッチBOX（緊急停止PB）の交換を行う。
 - ✓ 令和3年11月16日に作業予定であり、作業にあたりPCVガス管理設備を系統停止にする必要があることから、実施計画Ⅲ第1編第24条のうち「1チャンネルが動作可能であること」を満足出来なくなる。そのため、実施計画Ⅲ第1編第32条を適用し、あらかじめ必要な安全措置を定め、計画的に運転上の制限外に移行した上で作業を実施する。
 - ✓ また、PCVガス管理設備が系統停止になることから、併せて実施計画Ⅲ第1編第25条第2項第5号の※1に準じて、当該設備の停止中に必要な窒素封入量が確保されていることの確認やPCV内水素濃度の事前評価等の対応を行う。
 - 2号機PCV内部調査・試験的取り出し作業のうち隔離部屋設置作業の実施について
 - ✓ PCV内部調査及び燃料デブリの試験的取り出し作業の準備段階として、格納容器貫通孔（以下「X-6ペネ」という。）に、ステージ内隔離部屋・ハッチ隔離部屋・ロボット搬入部屋を設置する。その後、ハッチ開放装置をロボット搬入部屋へ搬入し、X-6ペネハッチを開放する。
 - ✓ ステージ内隔離部屋・ハッチ隔離部屋・ロボット搬入部屋の設置作業は、令和4年の年明け頃までを予定し、2月下旬から3月上旬にX-6ペネハッチの開放作業を予定している。
 - ✓ X-6ペネハッチ開放後は、次工程として、X-6ペネ内堆積物の除去作業を行い、ロボットアームの設置後、ロボットアームによるPCV内部調査及び燃料デブリの試験的取り出し作業の実施を計画している。
 - 2・3号機原子炉注水量低減の実施状況について
 - ✓ PCV水位が安定している2・3号機について、従来の注水量 $3.0\text{m}^3/\text{h}$ から $1.7\text{m}^3/\text{h}$ を目標に、段階的な注水量低減を計画している。
 - ✓ STEP1の作業として、従来の注水量 $3.0\text{m}^3/\text{h}$ から $0.5\text{m}^3/\text{h}$ 低減させた

2. $5\text{ m}^3/\text{h}$ の注水量で、2号機を7月から、3号機を8月から、それぞれ約2ヶ月間の試運用を実施した。

- ✓ 試運用の結果、原子炉压力容器（RPV）底部温度、PCV 内温度、PCV ガス管理設備ダスト濃度等の数値に異常がないことを確認したことから、2号機が9月9日、3号機が10月14日より、本運用を開始した。
- ✓ 今後、STEP 2の作業として、従来の注水量 $3.0\text{ m}^3/\text{h}$ から $1.3\text{ m}^3/\text{h}$ 低減させた $1.7\text{ m}^3/\text{h}$ の注水量で、まずは3号機について、11月10日から試運用を開始する予定であり、2号機については、工程調整中である。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。

- 2号機における燃料デブリの試験的取り出し（来年度実施予定）に必要な実施計画の変更認可申請について、審査の期間等を適切に考慮した上で余裕を持って申請すること。

6. その他

資料：

- 1号機 PCV ガス管理設備スイッチ BOX 交換作業について
- 2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業のうち隔離部屋設置作業の実施について
- 2・3号機原子炉注水量低減の実施状況について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール